

ハリガネムシ

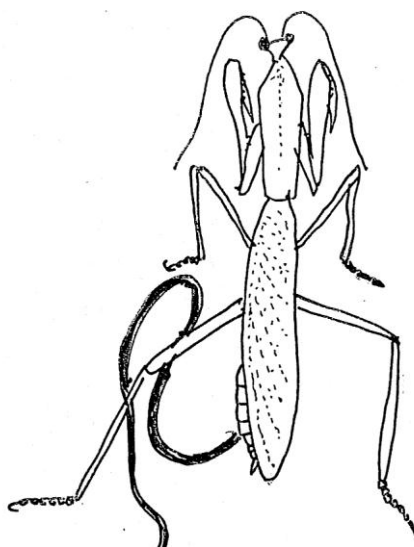
秋になると科学博物館に「針金はりかねのようなものが落ちていたので拾ってみたらグニグニ動くのでびっくりした。何ですか？」という質問がたくさん寄せられます。それはハリガネムシの仲間で、多くの種類があるようで、白っぽいものから褐色かしよくのものが多く、体長は数cmから1mに達します。体に節はなく、のたうち回るような動きをします。ハリガネムシは類線形動物るいせんけいどうぶつという仲間で、多くはカマキリやカマドウマ、キリギリスの仲間の腸内ちようないに寄生きせいしますが、私はムカデから出たものも見たことがあります。秋になるとこれらの虫の体内から出てきて水辺に向かい、水中で交尾かうびし卵を産みます。卵がかえって幼虫こうちゆうとなると水にまじってカゲロウやカ、ユスリカのなかまなどの昆虫こんちゆうの体に入ります。そしてその昆虫こんちゆうを食べたカマキリの腸内ちようないで寄生生活を送りながら成虫になります。

なお、ハリガネムシに寄生きせいされた昆虫こんちゆうは子どもができなくなる上に、最近さいきんの研究ではハリガネムシが出す物質によって、脳のうが狂い、水に入ると死ぬようにしむけられるという報告があります。ハリガネムシが水中で交尾し産卵するためには、時が来たら寄生きせいした昆虫こんちゆうに水に近いところに運んでもらわなくてはならないからです。水の中に入って死んだ昆虫こんちゆうたちの体はイワナなどの魚のエサとして大切なことがあるともいわれています。

ハリガネムシが人の体内から見つかった例が知られていますが、これは偶然ぐうぜんのことと考えられています。(2011年9月 布村 昇)



富山県産のハリガネムシの1種



ハリガネムシがカマキリから脱出するようす